

JOURNAL

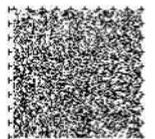


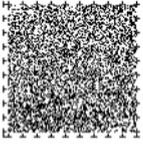
表紙の写真：くるめフォーラム2017の様子(3P～5Pに関連記事があります)

Contents

- 事業紹介…………… **LGBTって何？セクシュアルマイノリティを考える** …… 2
学生と社会人のワールドカフェ …… 2
- 特集…………… **久留米女性週間記念事業 くるめフォーラム2017
男女平等社会づくり**
記念講演 **誰もが自分らしく生きられる社会に向けて
～おばちゃん流幸せになる法則～** …… 3
映画・市民企画・実行委員の活動 …… 4・5
- 男女平等政策課… **久留米市男女共同参画フォトコンテスト** …… 6
～イクメン・カジダンがもう普通！？～
- 事業紹介…………… **女性に対する暴力をなくすキャンペーン** …… 7
- 相談室だより… **リベンジポルノ** …… 7
- 登録団体紹介… **国際ソロフチミスト久留米** …… 8
- 図書情報ステーション… **女性参政権への道** …… 8

2017
vol.57





事業紹介

LGBTって何？セクシュアルマイノリティを考える

～豊かなコミュニティをつくるために～

10月14日



講師 堀川 歩さん
(株式会社ミライロ 人事部長)

※LGBTとは、レスビアン（女性を愛する女性）、ゲイ（男性を愛する男性）、バイセクシュアル（男性も女性も愛する人）、トランスジェンダー（心と身体の性が一致しない人）の頭文字をとった総称。

性の違和感をはっきり自覚したのは小学校時代。他者と違うことを恐れ、周囲に合わせた。中学校時代は女性の身体として成長していくことにおびえながらもボーイッシュな格好をした。高校時代は制服のスカートをはかず上下スウェット、金髪で周囲から敬遠された。ある時、皆が懂れている先輩に興味を持ち「好きな色は何か」と聞いた。彼女は「空色。真っ青な時も真っ赤な時もあって、いろんな色に移り変わる、そんな空色が好き」と答えた。肩の力が抜けた。私は男性として生きたいと思うあまり、男性、女性という固定観念に縛られていたことに気付いた。「性も空の色のようにグラデーションなのかもしれない」と思えるようになり、性にこだわるのではなく、自分らしく生きようと思った。

カミングアウトは人間関係が壊れることを恐れてなかなかできることではない。LGBTであることを打ち明けられたときには「話してくれてありがとう」と受け止めてほしい。様々な違いをもつ人が自分らしく生きられる環境が整い、カミングアウトさえいらぬ社会になるといい。

次世代男女共同参画促進事業 学生と社会人のワールドカフェ

これからの自分をデザインする！～働くこと・生きること～

11月26日



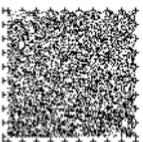
これから社会人となる学生を対象に、固定的性別役割分担意識にとられない働き方や生き方について理解を深めるセミナーを開催しました。コーディネーターは福岡女子大学准教授の和栗百恵さん。システムエンジニアや新聞記者、銀行員、会社員、経営者など15名の社会人にご協力をいただき、市内の大学を中心に約40名の学生が参加しました。

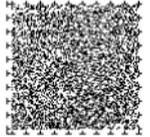
学生が社会人を囲んでテーブルに着き「働くことと成長や苦労」「辞めたいと思う時」「理想と現実のギャップ」「新人って？」「ワーク・ライフ・バランスとは」「仕事＝趣味はありえるか」「結婚・子育て・介護などのライフステージをどう考える？」などについて、席替えを繰り返しながら意見交換をしました。

学生は心揺さぶられる言葉に出会いながら、自身の気付きや価値観に触れ、働くことへの目標や意義を感じ取ったようです。

学生の声

- ・「『女だから、男だから』は結果で見れば関係ない」「家事や育児は仕事の効率化につながる」などの言葉に刺激を受けた。
- ・たくさんのチャンスがあることを知り行動につなぐことが大切と感じた。自分の目標を改めて考えてみたい。
- ・「成功」の反対は「やらない」こと。とにかく「やってみる」ことが大事と気付くことができた。





久留米市では、昭和63年10月1日に男女平等を進めるための市民と行政の指針である「久留米女性憲章」を制定しました。そして平成元年に憲章制定日である10月1日からの1週間を「久留米女性週間」と定め、その記念事業として「くるめフォーラム」を毎年実施しており、今回で29回目を迎えました。



記念講演

誰もが自分らしく生きられる社会に向けて ～おばちゃん流幸せになる法則～

講師 谷口 真由美さん(大阪国際大学准教授)

このレポートは、10月8日に行われた講演の一部を要約したものです。

◎女性の生きづらさへの気づき

私は父に「弱い者の味方に付きなさい」という考え方で育てられてきた。

学生の頃、「社会的に弱い立場にあるのは誰だろう」と考え進めていくうちに、圧倒的に女性の立場が弱いということに気がついた。「私は女性の味方でしよう」と思ったのはその時からである。大学に女子差別撤廃条約の研究をしていた先生のゼミに所属したことをきっかけに、私の「フェミニスト人生」が始まった。

◎社会全体が成熟していくために

25歳の時、同性愛者の知人が好意を寄せていた男性に失恋したことがあり、少数者は常に問われるということを深く考える機会があった。

同性を好きであるという人は、周りから見れば少数者であり、興味本位で問われる。それに対し、異性を好きであるという多数者は問われない。多数者は「普通」「常識」「当然」「一般的」の言葉で片付けられるが、その言葉で片付けられない人が世の中にはたくさんいることに気づく必要がある。

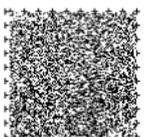
これを女性問題に置き換えたとき、戦後から始まった性別役割分業の考えである専業主婦モデルは多数者として問われることはなかったが、働く女性は「なぜ働くのか」「家事・育児はどうするのか」と問われ続けている。

社会全体が男女平等について成熟していくためには、お互いを認め合い、対等な関係を築いていくことが求められる。

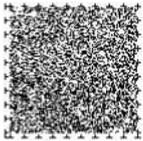
◎誰もが自分らしく生きられる社会

日本は、人間としての生きやすさについての国際評価（人間開発指数）188か国中20位であり高い評価を得ているが、男女平等に関する評価（ジェンダーギャップ指数）は144か国の中111位であり、先進国の中では最下位。この落差が現在の日本の課題であり、いまだに解消されていない。

全てのことに共通して、「弱い人」「小さい人」等しんどい方に合わせると皆生きやすい。そのことから、多数者が少数者に問いかけるのではなく耳を傾けるほうが、誰にも優しい社会であると言える。



※2016年時点での順位。講演後の11月には、2017年の日本の順位が114位となったことが発表された。



特集

くるめフォーラム2017

男女平等社会づくり

9月26日～10月10日

「くるめフォーラム2017」の開催に向けて、市内32の団体を中心に総勢46人からなる実行委員会が結成され、9ヶ月かけて準備が進められました。期間中は記念講演や映画上映、展示・バザーの他、14の市民団体による講演会やワークショップ等が行われ、多くの人が男女共同参画について考える機会となりました。



実行委員会の風景。毎回、様々な意見が交わされます。

団結の掛け声とともに
気合が入ります。



会場前の
最終確認に
余念が
ありません。



くーみんテレビの撮影も行いました。



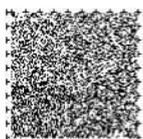
入口での会場案内やチラシ配りも交代で行いました。

映画 「未来を花束にして」 2015年／イギリス

1912年イギリスで参政権を求めて立ち上がった女性たちの実話をもとにした映画です。



© Pathe Productions Limited, Channel Four Television Corporation and The British Film Institute 2015. All rights reserved.



～くるめフォーラム2017を終えて～

「男女平等社会づくり」に向けた熱い思いが伝わるフォーラムでした。1月からの実行委員会も楽しく充実したものでした。

このフォーラムが、皆様の一歩を踏み出すヒントになり、つながりが広がることを期待しています。



樋口けい子実行委員長

「地域でともに生きる」を支援
樋口千恵子 (NPO法人たんがく理事長)



【城島女性ネットワーク】

女・男(みんな)が今 気になることは!
中西 昌人 (西日本新聞社久留米総局総局長)



【北野女性ネットワーク】

男女(ともに)築こう! 子どもの未来
牛島 達郎 (元福岡女学院大学教授)



【田主丸町ネットワーク】

介護保険法の転換による在宅介護のいま
齋藤 如由 (齋藤醫院院長)



【高齢社会をよくする会・久留米】

ケースから学ぶ支援の極意
-支援が上手いかわなくてモヤモヤしてませんか-
富田 伸 (富田醫院院長)、パネラー2名



【さぼちやい】

原発事故から6年 福島の視察報告
～女性たちの今～
鍋島 典子 (弁護士)



【新日本婦人の会 久留米支部】

市民企画特集

こども食堂からみえるもの

山口祐二 (福岡子ども短期大学講師)、
堀江範子 (ひがしこくぶふれあい食堂代表)、
田町菜穂子 (ボナビティ事務局長)、下川京子
(チャイルドサポートネットワーク代表)



【女問研】

みんながみんなのために (All for All)
～頼りあえる社会をめざして～
井手英策 (慶応義塾大学経済学部教授)



【くろめフォーラム実行委員会】

久留米における男女平等のあゆみと
今後の取り組み

綾戸麗子、今津幸、堀田富子、日隈美和子



【I 女性会議久留米支部】

伸びよ 未来へ園児っ子
-男女平等は今-

早野恵美子 (前松柏保育園園長)
片岡祥 (西南学院大学人間科学部心理学科助手)



【男女共同参画教育を推進する会】

若者と共に



【リプロダクティブヘルス・ライツと環境を考える会】

女性議員を増やそう
～女性が政治を変えていく～

藤田一枝 (元衆議院議員)



【北京JAC久留米】

女性に対する暴力根絶の
シンボル「パープルリボン」
ツリーを作ろう!

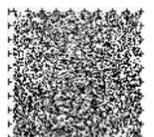
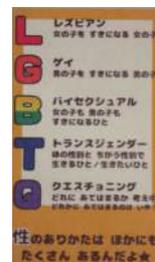


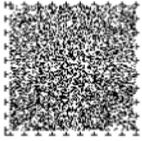
【S・ぽ〜ぶるリボン】

LGBTQユースが考える
LGBTQの子どもも
安心して通える学校

石崎杏理 (FRENS代表)、
FRENSユースチーム

【あいたた倶楽部】





久留米市男女共同参画フォトコンテスト ～イクメン・カジダンがもう普通!?～

久留米市では、男女共同参画社会の実現に向け、男性が家事・育児を行うきっかけとしていただくため（※参照）、「イクメン・カジダンがもう普通!?」をテーマにして、男性が家事・育児をしている様子を収めたフォトコンテストを実施しました。平成29年7月1日から8月15日にかけて、「広報くるめ」などで作品を募集した結果、38作品のご応募をいただき、優秀賞3作品、市民特別賞1作品が選ばれました。

なお、受賞作品については、市公式ホームページでも公開していますので、是非ご覧ください。

パパ～！！絵本読んでー！！/蒲池 信介様

優秀賞



受賞者の作品コメント

第3子誕生に伴い、育休を取得しました。
毎週水曜日は保育園のノーテレビデー。
「お化けの絵本、借りてきたよー！！」と嬉しそうな子ども達。ドキドキ、ワクワクのお話に読み聞かせるパパも一緒に楽しんでます。

日課 ～我が家はみんなで家事分担～/田中 晶子様

優秀賞



受賞者の作品コメント

5年前の義父と息子です。会社人間だった父も、退職後は自然と家事をするようになりました。たたんでいるのは祖母のバジマ。家族で協力して看取りました。
父も2年前に亡くなりましたが、大切なルールは子ども達にも引き継がれています。

梅仕事やれば我が子もついてくる/田中 真人様

優秀賞



受賞者の作品コメント

我がチーム（家族）は全員がオールラウンド（一人前）を目指しています。キャプテン（父）が積極的にプレイ（家事）すればメンバー（子ども）もついてきます。出来上がった梅シロップは皆でおいしくいただきます。

風呂の清掃/高田 享様

市民特別賞



受賞者の作品コメント

男女共同参画の講座を受けるたびに、男も女性と一緒に「何かせにゃいかん」と思っていたので、風呂の清掃をしました。

★優秀賞…男女共同参画に見識のある審査員が選定しました。

★市民特別賞…市役所本庁舎やえーるピア久留米に設置した投票箱、久留米市公式ホームページからの市民投票で選ばれました。

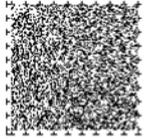
※福岡県の共働き世帯における家事時間は全国最低（統計局による社会基本調査、平成23年度時点）

6歳未満の子どもの持つ夫の家事・育児関連時間は、国の平均67分に比べ、福岡県は62分（1日あたり）、その内家事時間は4分で全国最下位でした（妻の家事育児関連時間は、国平均461分、その内育児のみの時間は202分）。

一方で、働く時間の長さは全国でもトップクラスであり、男女の固定的性別役割分担が顕著に現れている結果となっています。
国では、2020年に6歳未満の子どもの持つ日本人男性の1日あたりの家事育児関連時間を67分から150分にするように、様々な取り組みを進めています。

◆問い合わせ先…男女平等政策課 TEL0942-30-9044 FAX0942-30-9703

国では、毎年11月12日から25日までの2週間を「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間と定め、全国各地で女性に対する暴力根絶のための取り組みを行っています。この期間に当センターが実施した事業の一部を紹介します。



【講演会】 **性被害を考える**

11月12日

～アダルトビデオの出演を強要されて～

講師：宮本 節子さん

（「ポルノ被害と性暴力を考える会」によるAV被害者相談支援事業スーパーバイザー）

多くの人は、アダルトビデオの出演強要に関する問題は都市で起きていると思っている。確かに被害は東京などの都市に多いが、地方でも起きている。また、被害女性は地方出身者が多く、日本全体の問題である。

AV産業の中にある性暴力がこれまで社会問題化・可視化されてこなかった原因は、その事実を認知している人たちが沈黙していたからである。被害女性たちは、出演を拒むことで違約金を請求されたり脅されたりした。また、自らも「契約書にサインした」「出演料をもらった」等、自業自得・自己責任と思い込み、相談することができずにいた。AV業者は、性暴力があるとわかっているにもかかわらず、商売や利益のために何も言わない。また、消費者も、過激な実演を求める一方で「演技だから性暴力じゃない」と正当化している。

このような中、2013年に私たちの会で相談体制を構築し、被害者たちが声を挙げはじめたことで、やっと社会問題視されるようになった。国は様々な施策を進めているが、インターネット技術の進歩に対策が追い付いていない。

一度インターネット上に流された情報は、全てを回収・削除することはできず、被害の痕跡は生涯にわたって社会的に残り続ける。被害者を守る有効な手段や方法がない今、私たちは被害者支援及び対応策を講じるとともに、被害を生み出さない社会づくりに真正面から取り組んでいかなければならない。

相談室だより

～リベンジポルノ～

仕返し・復讐などを目的に、元交際相手や元配偶者の性的な画像・動画をインターネットに公開・流出する事件が社会問題となっています。

2013年10月に発生した三鷹女子高生ストーカー殺人事件を機に、翌年11月リベンジポルノ被害防止法が施行され、本人の許可なく性的な画像や動画を公開・流出することは犯罪となりました。しかし、今なお被害者は後を絶ちません。

●リベンジポルノ被害の現状

交際相手に「裸の写真を撮らせて」「エッチな写真を送って」などと言われて、「好きだから、頼まれたら断れない。嫌われたくない」「私と相手だけの秘密」と思い込み、安易に要求に応じると、後に交際上のトラブルが発生した際、こうした画像・動画が悪用される恐れがあります。「まさか相手が私の写真や動画を第三者に見せ

ると思わなかった」と思っても、実際に被害に遭い事件に発展している例があります。

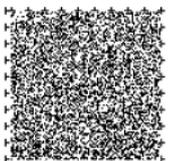
また、インターネット上で知り合った相手に裸や下着の画像・動画を送信して、後にトラブルになったケースもあります。

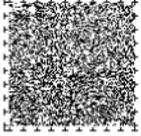
一度インターネット上に出回ると世界中に拡散され、不特定多数の目にさらされてしまいます。完全に消し去ることは極めて困難となり、流出・拡散された画像・動画は半永久的に残り、被害者は精神的・社会的に苦しい状況に追い詰められます。リベンジポルノの被害に遭わないためには、まず、性的な画像・動画を「撮らない」「撮らせない」「送らない」ことが重要です。

●被害に遭ったら

相談室では、リベンジポルノ被害相談をお受けしています。もし、相手から「インターネットに流す」などと脅かされ、ひとりで悩んでいたなら、是非相談してください。リベンジポルノは、重大な人権侵害行為であり、犯罪です。

あなたは悪くありません。
あなたは被害者です。





登録団体紹介

国際ソロプチミスト久留米

国際ソロプチミスト久留米は1978年認証以来、女性と女兒の生活と地位向上の為、国連の活動支援や女子高校生の奨学金事業などを始め、様々な活動を行っています。会員数は38名です。

今年は、認証40周年記念事業として「坂東眞理子講演会」を開催するとともに、私たちの活動と深く関係している「女性に対する暴力をなくす運動」に賛同し、久留米市に「パープルツリー」を寄贈いたしました。

この高さ4メートルのパープルツリーは、信愛女学院中・高校の生徒たちや私たち会員が、女性に対する暴力根絶の願いを込めて手作りした約500個のパープルリボンで飾られています。

その他、私たちは次のような活動を行っています。

- ・国際プロジェクト支援
- ・連盟プロジェクト支援
- ・国連活動支援(ユニセフ・ユネスコ・ハビタット)
- ・日本国連協会福岡県本部支援
- ・社会福祉施設訪問

女性と女兒の生活と地位向上をめざして

- ・久留米市青少年弁論大会寄付
- ・久留米市少年健全育成駅伝大会寄付
- ・S・ぱ〜ぶるリボン寄付
- ・久留米観光コンベンション国際交流協会寄付
- ・久留米男女共同参画推進ネットワーク(えがりて久留米)寄付
- ・女子高校生の奨学金事業 など

これからも私たちは、女性と女兒の自立・地位向上をめざして、会員が協力し合って活動していきます。



H29.11.24 パープルツリー点灯式(久留米シティプラザ2階ロビーにて)

女性参政権への道

図書情報ステーション

「くるめフォーラム2017」で上映された映画「未来を花束にして」に関連して、女性参政権をテーマにした本を紹介します。



サフラジェット

英国女性参政権運動の肖像とシルビア・パンクハースト

中村 久司/著 大月書店 2017年

女性参政権を勝ち取るために暴行、投獄、拷問を戦い抜いた英国の女性たち。1903年に設立され後年「サフラジェット」と呼ばれるようになった、英国の戦闘的な女性集団「女性社会政治同盟」の歴史が描かれています。

イギリス女性参政権運動とプロパガンダ

エドワード朝の視覚的表象と女性像

佐藤 繭香/著 彩流社 2017年

イギリス女性参政権は「戦闘的行為」だけではなく、各組織が演劇、バザー、ポスター等の色彩を通して大衆に訴えかけました。当時の視覚的プロパガンダの展開と共に「働く女性の表象」に注目して論じられた1冊です。



市川房枝

女性解放運動から社会変革へ

筑摩書房編集部/著 筑摩書房 2015年

日本の女性参政権運動を推進し、女性の地位向上や平和運動、市民社会の実現に向けて努力を続けた市川房枝さんの人生を辿ります。



●編集・発行●
平成29年12月

久留米市男女平等推進センター

〒830-0037
久留米市諏訪野町1830-6
え〜るピア久留米内
TEL: 0942-30-7800
FAX: 0942-30-7811
URL: <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>
E-mail: danjo-c@city.kurume.fukuoka.jp



- 徒歩/西鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/西鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩5分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。



この広報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。